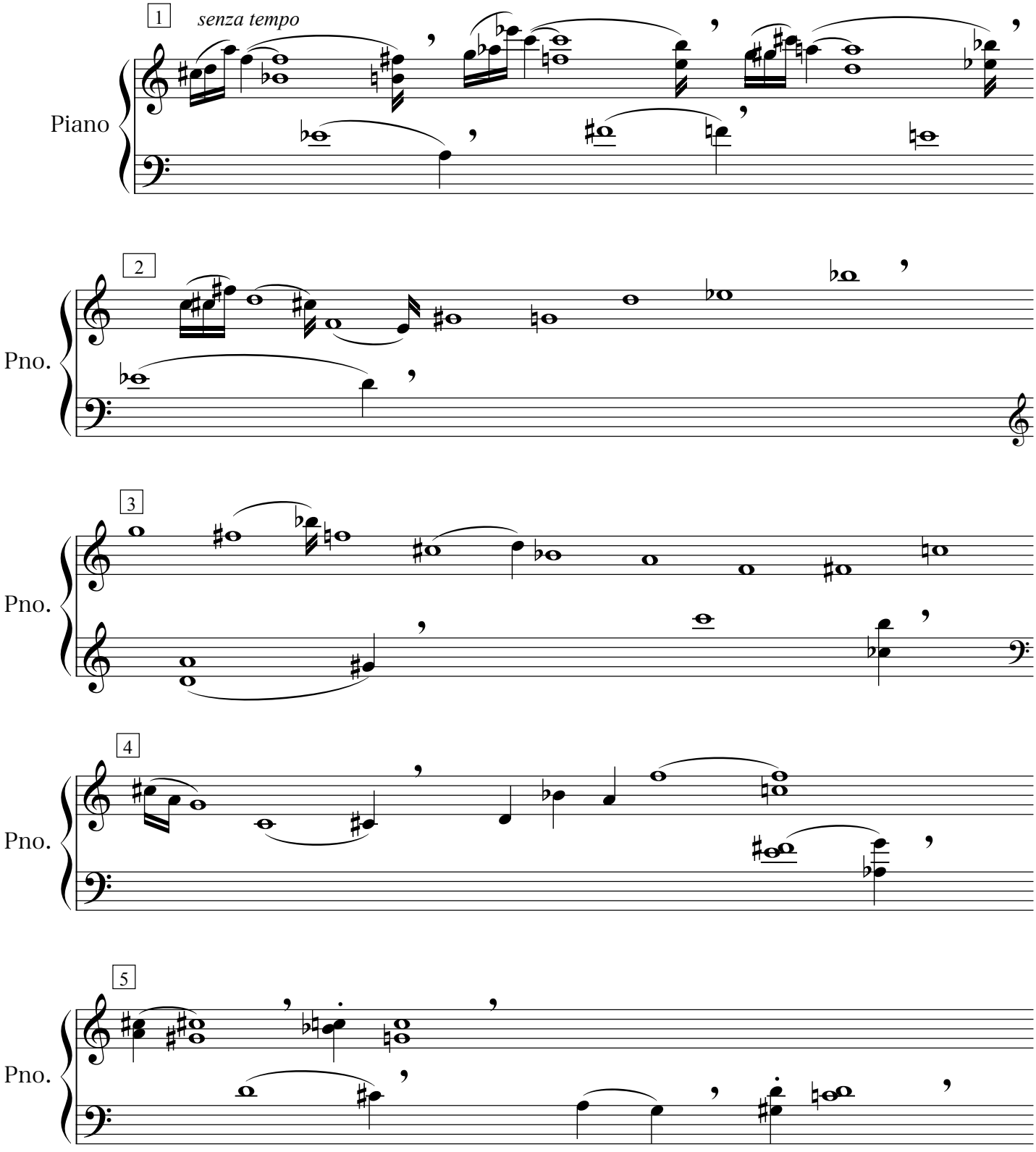
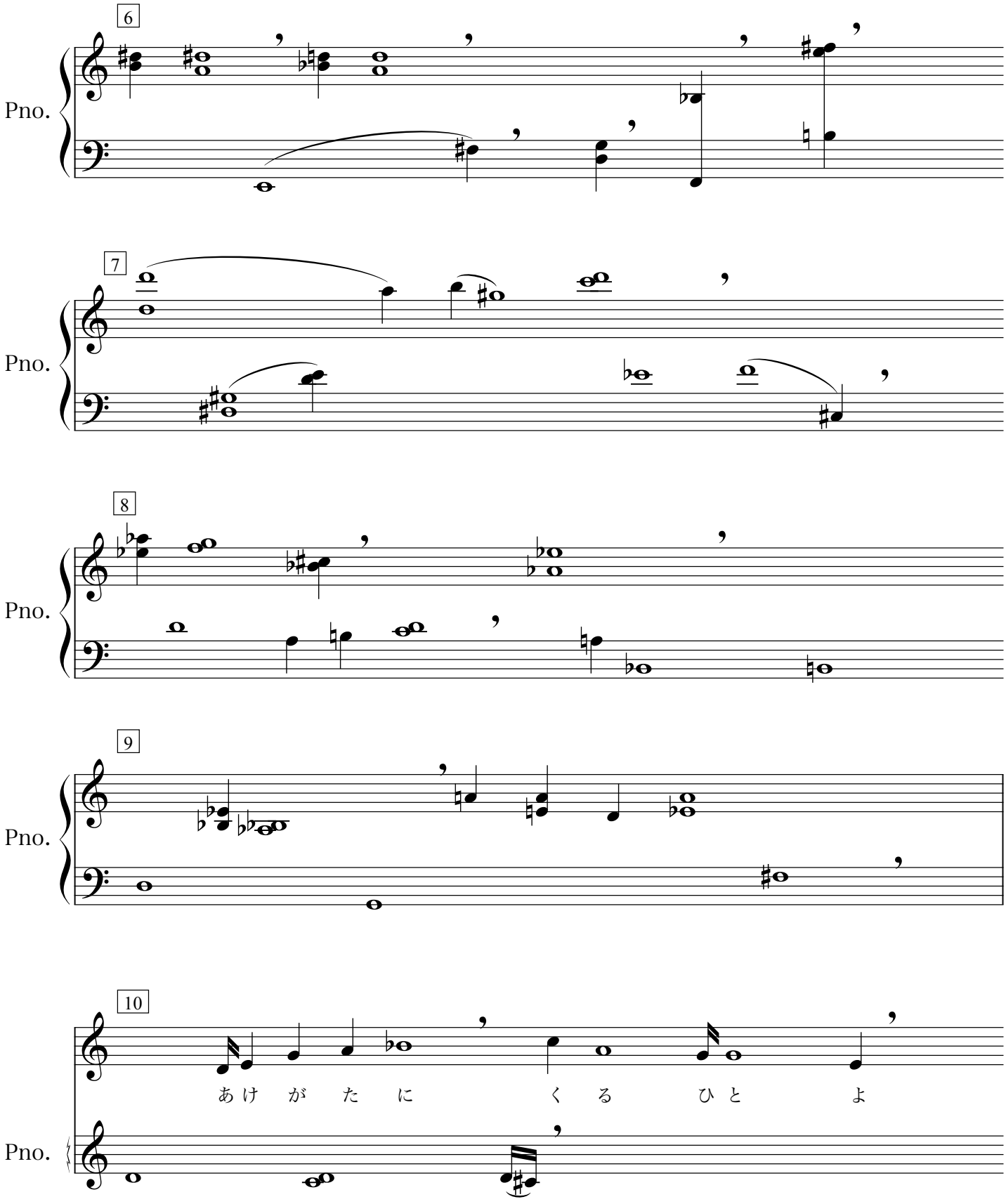
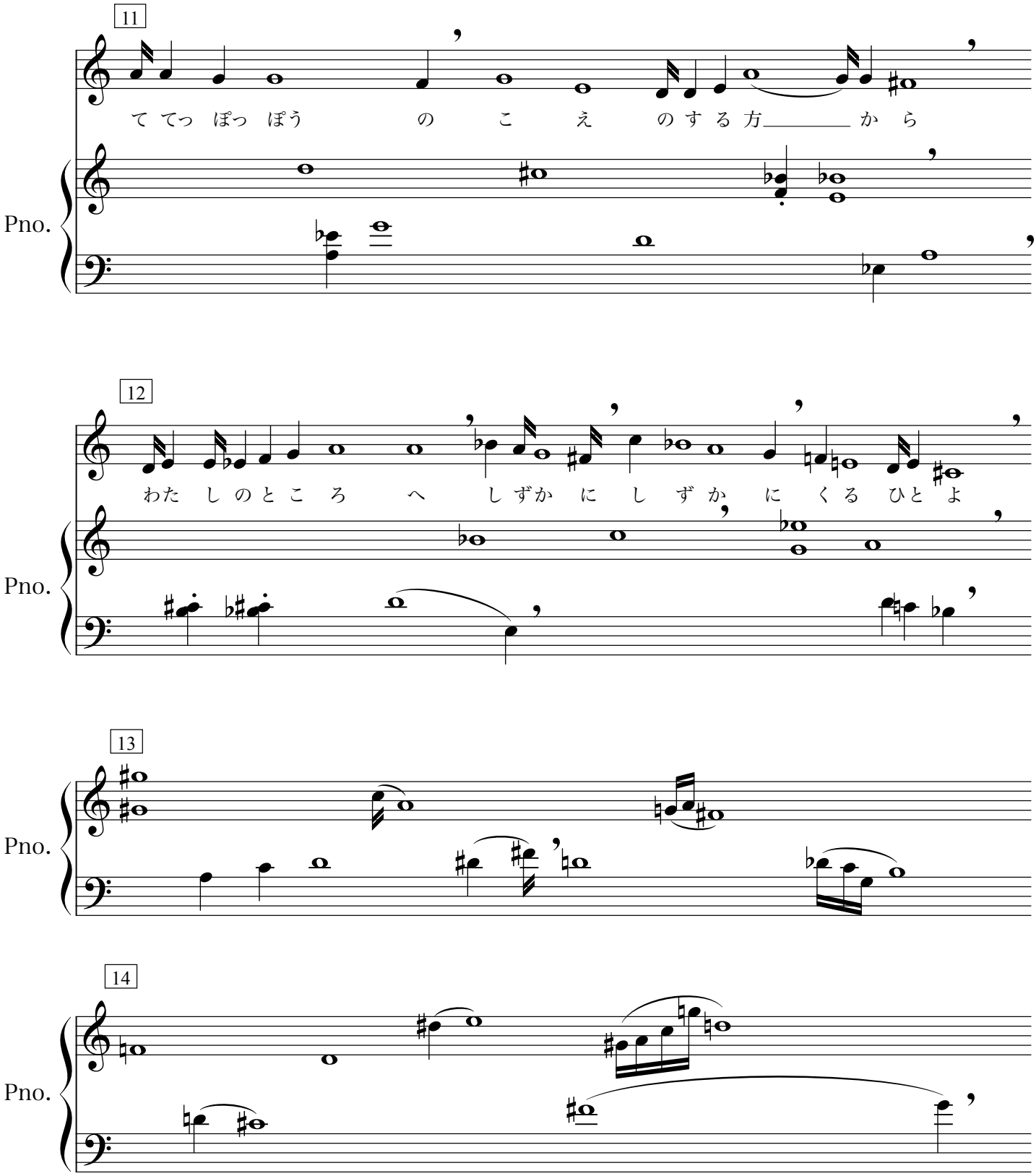
あけがたにくる人よ

詩：永瀬清子
高橋悠治
Yuji Takahashi




6
Pno.
7
Pno.
8
Pno.
9
Pno.
10
あ け が た に く る ひ と よ
Pno.


11
ててっ ぽっ ぽう の こ え のする方 から
Pno.
12
わた しのとこ ろ へ しずか に しずか に くる ひと よ
Pno.
13
Pno.
14
Pno.

15

一生＿＿ の や ま　さか＿＿ は　あ お＿＿ く　たとえよう　も な く き び　　し く

Pno.

16

わ　た　し は　い　ま　　老　　い　　て　し まっ て

Pno.

17

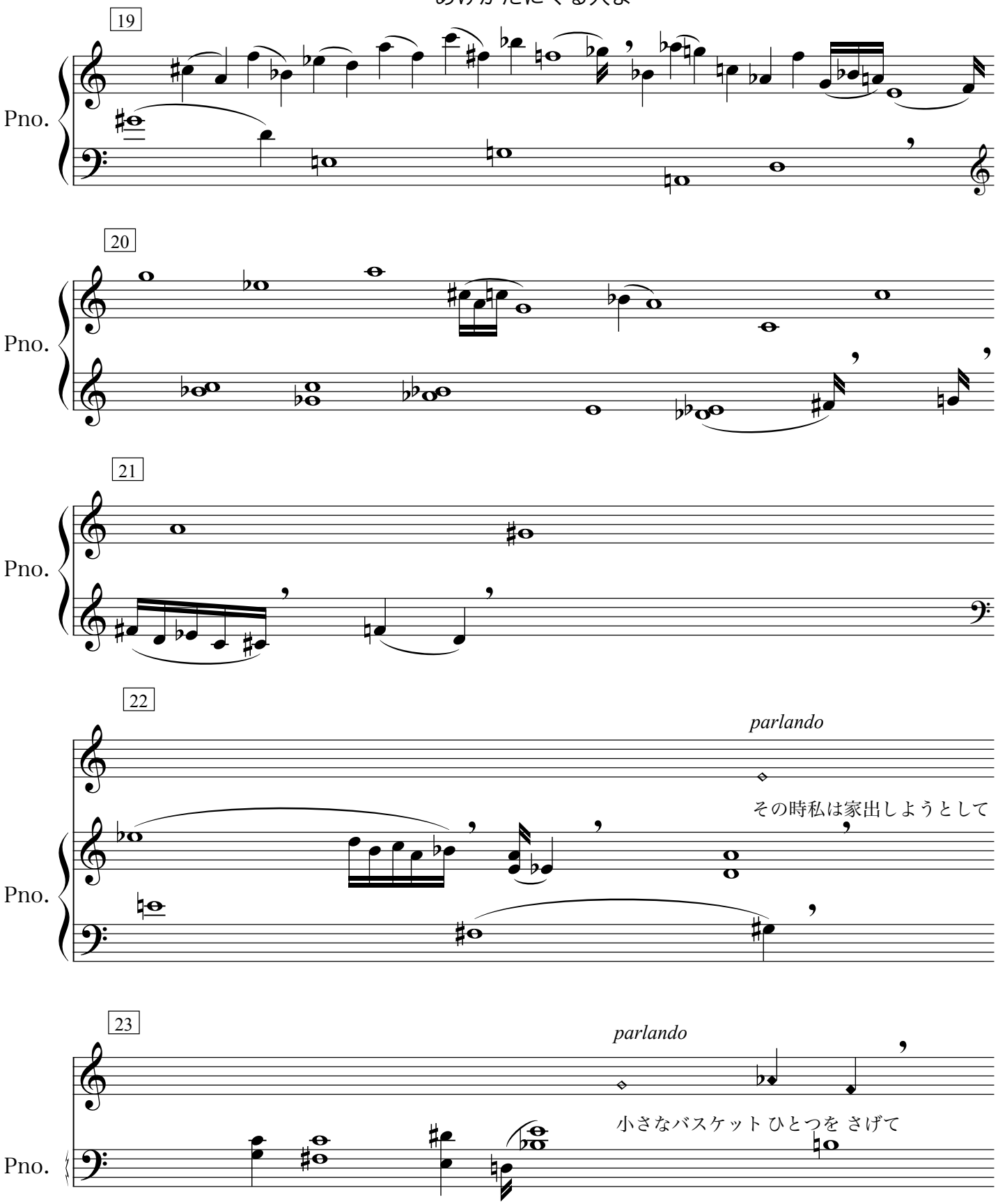
ほ　か　の　と し よ り　と　　お　　な　じ＿　に

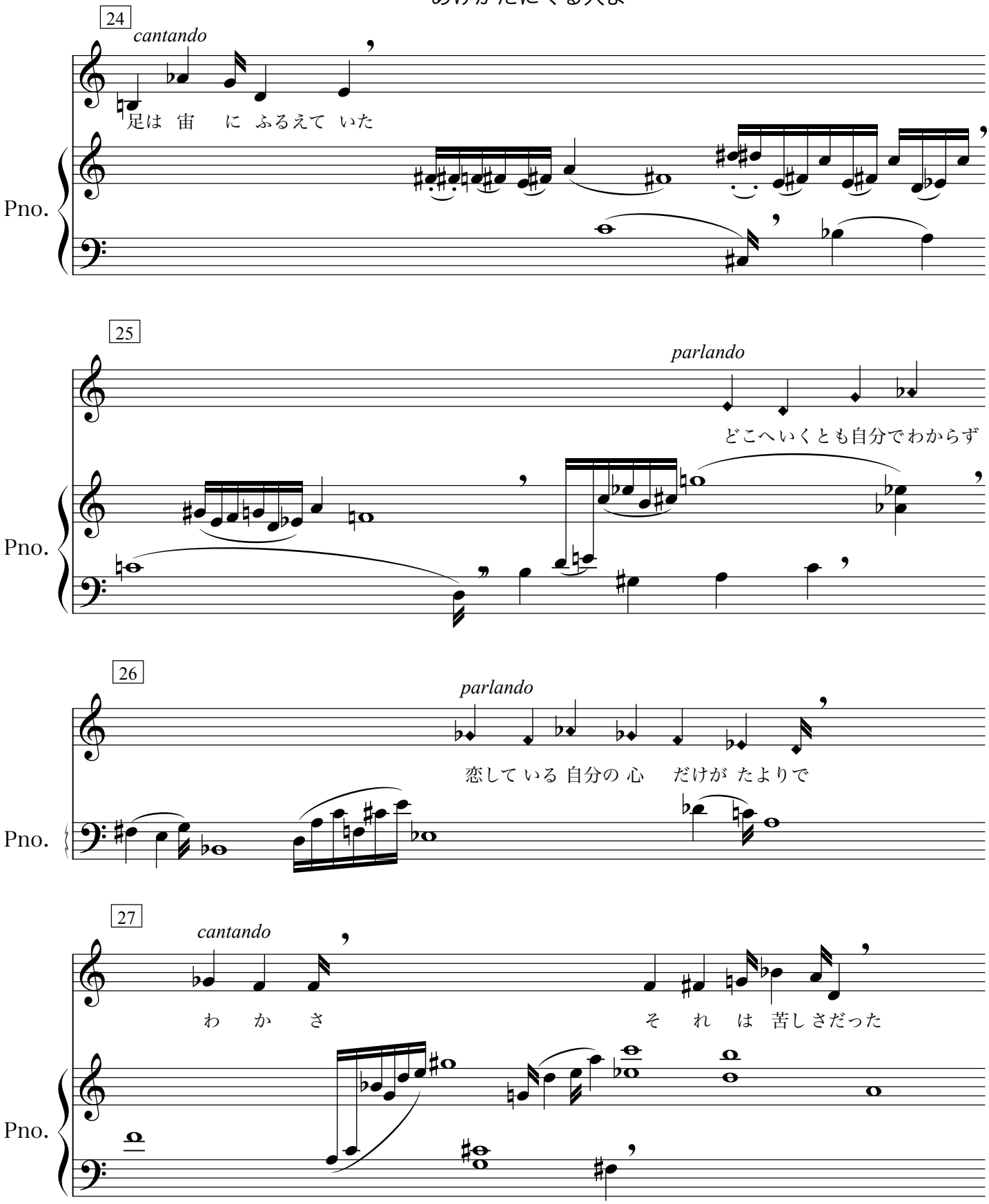
Pno.

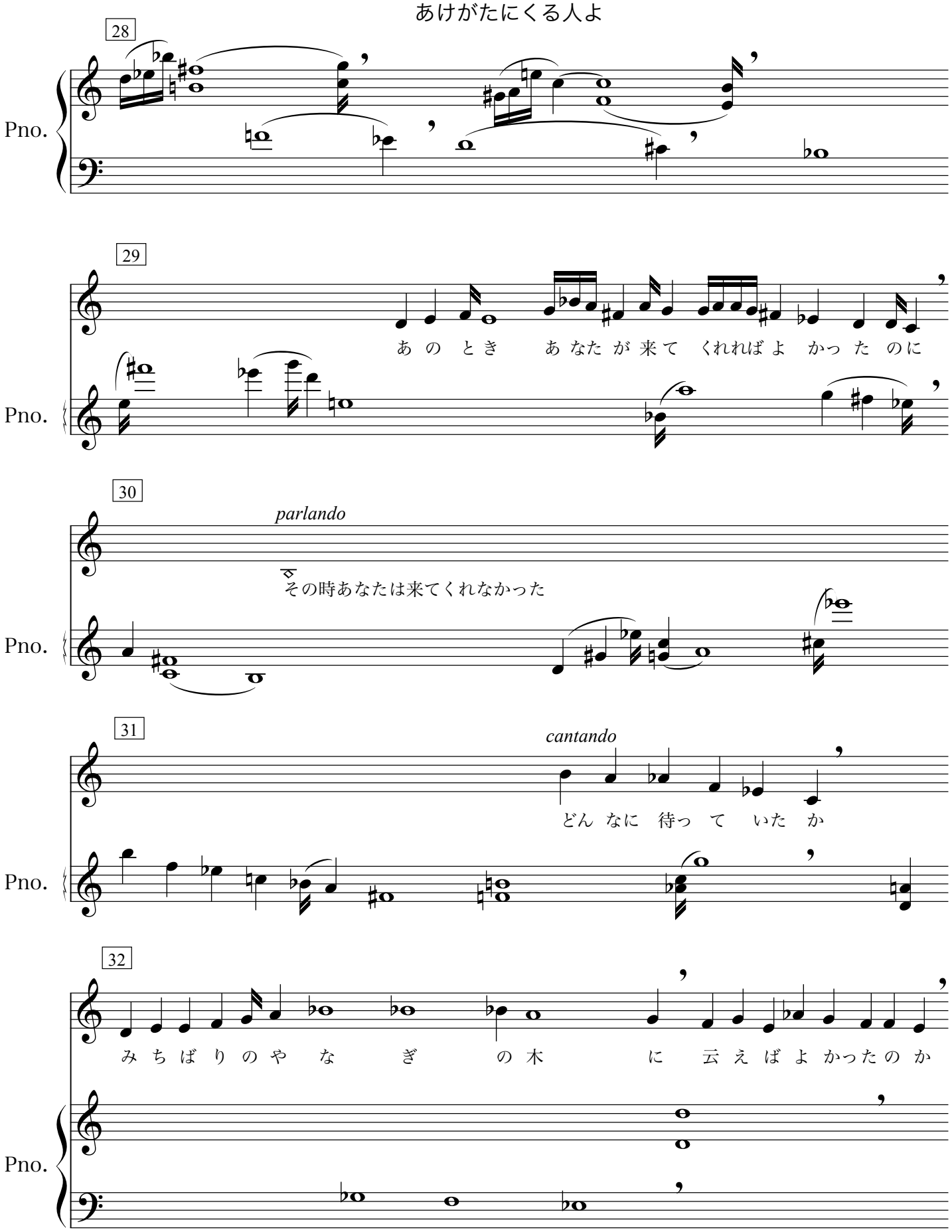
18

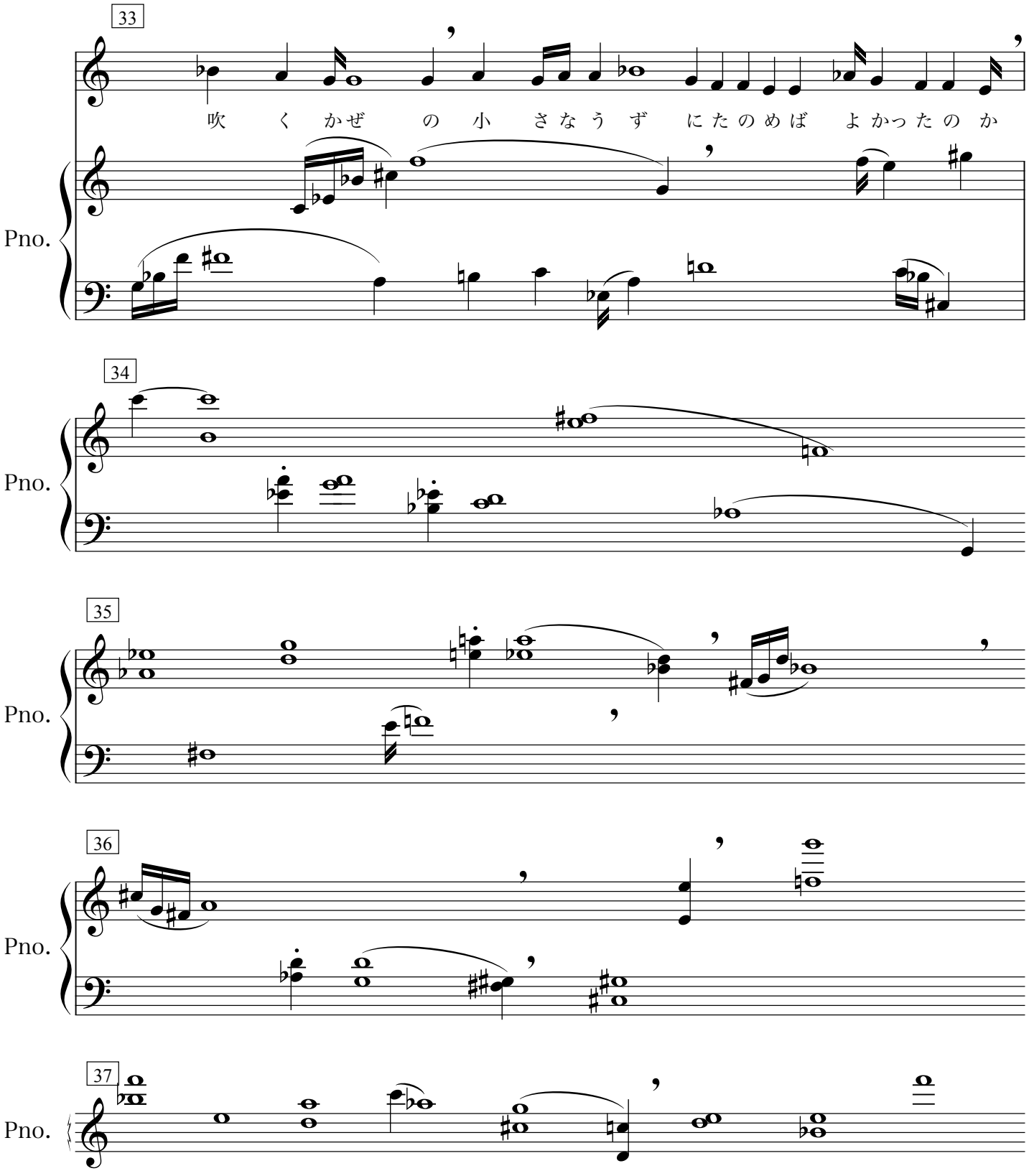
わ か かった 日 の こ と　　を　　千 万 遍 恋 う　　て　い る

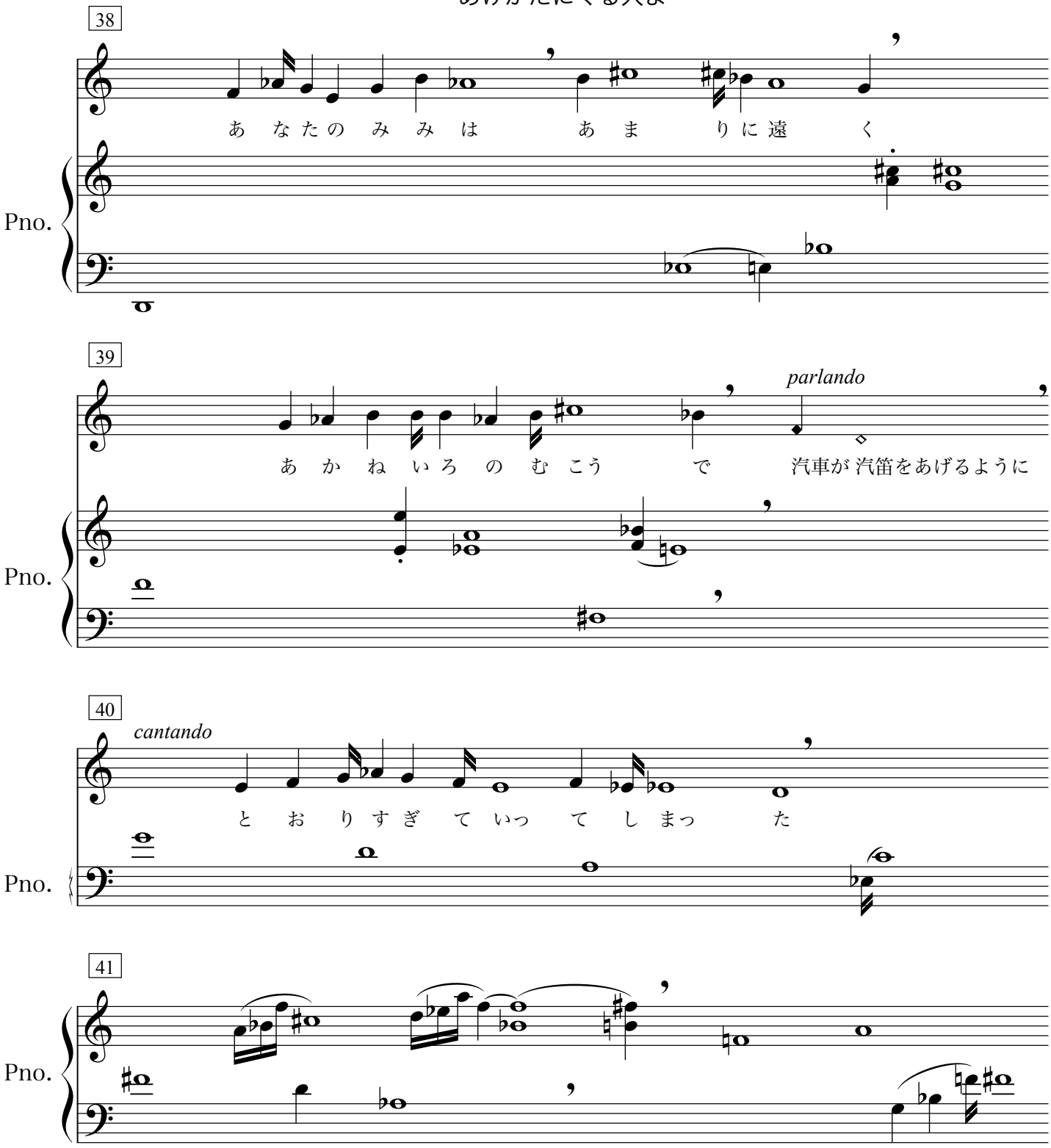
Pno.

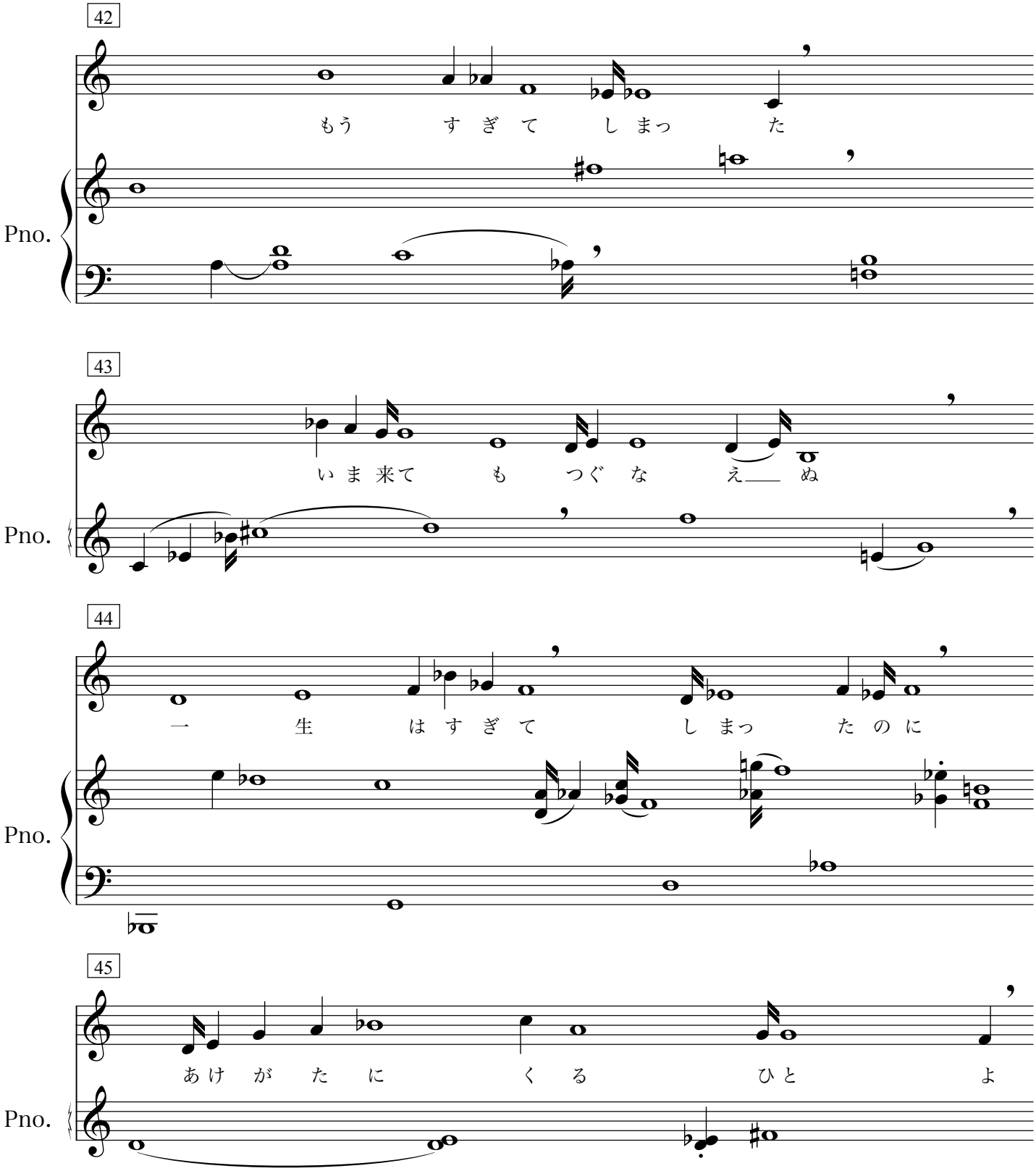

19
Pno.
20
Pno.
21
Pno.
22
parlando
その時私は家出しようとして
Pno.
23
parlando
小さなバスケット ひとつを さげて
Pno.

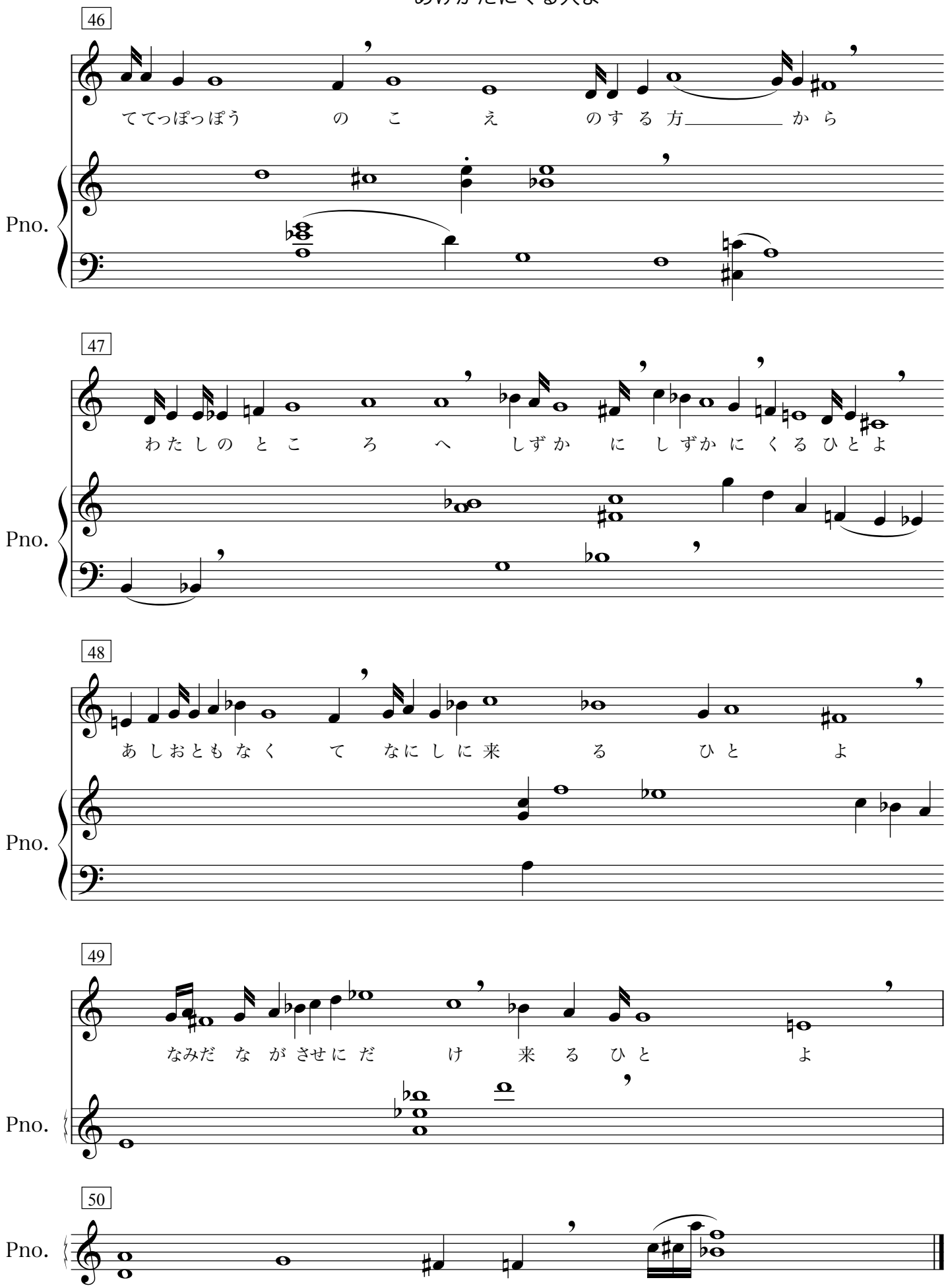

24
cantando
足は 宙 に ふるえて いた
Pno.
25
parlando
どこへいくとも自分でわからず
Pno.
26
parlando
恋して いる 自分の 心 だけが たよりで
Pno.
27
cantando
わ か さ
そ れ は 苦し さだった
Pno.


28
Pno.
29
あ の と き あ なた が 来 て くれれば よ かっ た のに
Pno.
30
parlando
その時あなたは来てくれなかった
Pno.
31
cantando
どん なに 待っ て いた か
Pno.
32
み ち ば り の や な ぎ の 木 に 云 え ば よ かったの か
Pno.


33
吹 く かぜ の 小 さなうず にたのめば よかったのか
Pno.
34
Pno.
35
Pno.
36
Pno.
37
Pno.


38
あ な たの み み は あ ま りに遠 く
Pno.
39
parlando
あ か ね い ろ の む こう で 汽車が 汽笛をあげるように
Pno.
40
cantando
と お り すぎ て いっ て し まっ た
Pno.
41
Pno.


42
もう すぎて しまった
Pno.
43
いま来て も つぐ な え__ ぬ
Pno.
44
一 生 はすぎて しまった のに
Pno.
45
あけがたに くる ひと よ
Pno.


46
ててっぽっぽう　の　こ　え　のする方＿＿＿＿から
Pno.
47
わたしのとこ　ろ　へ　しずか　に　しずかにくるひとよ
Pno.
48
あしおともなく　て　なにしに来　る　ひと　よ
Pno.
49
なみだ　な　がさせにだ　け　来　る　ひと　よ
Pno.
50
Pno.

あけがたにくる人よ　　永瀬清子

あけがたにくる人よ
ててっぽっぽうの声のする方から
私の所へしずかにしずかにくる人よ
一生の山坂は蒼(あお)くたとえようもなくきびしく
私はいま老いてしまって
ほかの年よりと同じに
若かった日のことを千万遍恋うている

その時私は家出しようとして
小さなバスケットひとつをさげて
足は宙にふるえていた
どこへいくとも自分でわからず
恋している自分の心だけがたよりで
若さ、それは苦しさだった

その時あなたが来てくれればよかったのに
その時あなたは来てくれなかった
どんなに待っているか
道べりの柳の木に云えばよかったのか
吹く風の小さな渦に頼めばよかったのか

あなたの耳はあまりに遠く
茜色の向うで汽車が汽笛をあげるように
通りすぎていってしまった

もう過ぎてしまった
いま来てもつぐなえぬ
一生は過ぎてしまったのに
あけがたにくる人よ
ててっぽっぽうの声のする方から
私の方へしずかにしずかに来る人よ
足音もなくて何しに来る人よ
涙流させにだけ来る人よ